

第1回 本港区エリアの利活用に係る検討委員会
「議事6(3)意見交換」の議事録

- ・日 時：令和4年12月23日（金）午後2時～午後4時40分
- ・場 所：市町村自治会館4階「ホール」

※ 以下、意見交換冒頭における、サッカー等スタジアムを含めた鹿児島市のまちづくりの考え方についての同市からの説明後の内容

（郷原委員）

私は年をとっているもんですから、50年前の話ができるんです。今から50年前に、鹿児島商工会議所の岩崎会頭は、鹿児島を国際観光都市にしようということで、錦江湾にクルーズ船を呼ぶことを始められました。この時に、金丸知事も賛同されて、岩崎会頭と一緒に世界中を駆け回って運動をされました。その結果、色々な船が次々と入ってきました。この実績を踏まえて、鹿児島県の歴代の知事は、クルーズ船を呼ぼうということで、マリンポートをつくられたんです。今や世界最大のクルーズ船が入る港ができたんです。

ところが考えてみてください。それを受け入れる体制は何もできてないんです。クルーズ船の客が言ったアンケートを見ると、第1位は吉野公園、第2位は城山展望台、第3位は照國神社となっているんです。こういうことで、世界最大のクルーズ船が来て何の意味があるんだろうかと思うんです。

私はやっぱり、そういうマリンポートにふさわしい国際観光都市をつくらないといけないと思うんです。それは誰が計画して、どこにどういうふうにつくるかという話になりますと、私は答えが出てると思うんです。県の方で平成31年につくられた「鹿児島県本港区エリアまちづくりランドデザイン」を見ますと、感動的で、これしかないんじゃないかと思うんです。

これにコンベンションセンターとかを付け加えると、完璧じゃないかと思うんです。今まで活かされていなかった錦江湾もこれで活きるし、桜島もまた活性化するし、ちょうどいいことに本港区の真ん中には、種子島、屋久島を結ぶ高速船の港もあります。本港区がそういう観光地になると、新しい種子・屋久、指宿、大隅を含めた観光ルートが生まれると思うんです。

私が残念に思うのは、せっかくああいう立派なマリンポートができたのに、それを受け入れる体制をつくるには、本港区をどう活かすかということが一

番大切だと思うんです。

そこで問題なのは、じゃあ体育館はどうするんだという話になりますけど、同じ県有地で隣り合わせている住吉地区に、500～600メートルずらせば済む話じゃないでしょうか。私は是非、本港区を世界が誇るような観光地にしてほしいとクルーズ船が来るたびにそう思うわけです。

知事は若くてハンサムなので、私は非常に期待して投票したわけでございます。若い頃は、イタリアとかあっちこっちで働いておられて、経済界の官僚としても九州のトップクラスにいた方です。

私は、鹿児島を世界が誇る憧れの観光地にしていただけるのに、こういう若いセンスのある実力を持った方が指導していただきたいといつも思っているわけです。是非、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(北崎委員長)

ありがとうございました。これからのやり方なんですが、皆さんの意見をお聞きしたいので、貴重な意見として承って、2回目の次回に、まとめて県の方からきちんとした対応をとっていただくという方法でよろしいでしょうか。やり取りしますと、もう時間がないので、クルーズ船を受け入れるための体制、これをやっぱり考えてほしいという意見でございました。そういう方法でよろしいでしょうか。意見交換というのはそもそも双方向でやらないといけません。今回は時間がございませんので、第2回目では、そういうちょっと深めた議論をしたいというふうに思います。他にございませんでしょうか。

(有馬委員)

一つ提案ですけど、まちづくりずっとしてきたんですけど、その視点から一つ申し上げると、縷々たくさん説明していただいて、もう中身が素晴らしいと思って頭の中が今いっぱいなんですけど、一つ欠けてるのが、全体像、ビジョン、このエリアをどういうイメージでつくり上げていくのか。

景観は自然として大事なんだけど、やっぱり建物も含めての景観なので、やっぱりその全体イメージがないと、民間にずっとこう将来的にまわすにしても、色んなものをつくっていただくにしても、景観がずれるとインパクトがなくなる、それが一つ。

それとやっぱりあの、ここの中に大変たくさん出てくるんだけど、あまり他

所（よそ）の湾を見ないで、自分達で考えて、オリジナリティをつかった方がいいんじゃないかなあとと思います。

それとスポーツ・コンベンションセンターについて一言申し上げると、できたらスポーツの振興に全力投球をしていただきたい。ステータスになるような競技会場をつくるんだから、それと同時にスポーツは絶対になくならないので、やっぱりこれはスポーツ振興に一生懸命努めていただくことで集客があって、その上で、国際会議場もそうなんですけど、その上で、経済効果は自動的に生まれるので。

僕は天文館をずっとやってきたんですけれども、実際は、近隣の堀江とか住吉とか名山とか、そういうところがまずは潤って経済効果が生まれるように。その後が多分天文館だと思うので。まああの、本当に今悲惨なんですよ。悲惨というか、ずっとこうイノベーションが起こってなくて大変な状態になっているので、是非お願いしたいと思います。

従って、スポーツ・コンベンションセンターについては、なるべく本来の主旨である会議場とスポーツの振興という、その部分に全力投球をしていただくことが、まず第1優先事項だと思うので。今申し上げた経過についても、できたらもう全国の人に、鹿児島県の設計事務所に全部コンペをさせて、色んな提案をしていただく時に、例えばですけどそういう全体像が生まれるようなものがあると良いと思います。以上です。

（北崎委員長）

ありがとうございました。他に。岩崎委員お願いします。

（岩崎委員）

事前に1人3分と聞いておりましたので、簡単に申し上げます。

まず、鹿児島商工会議所はですね、今日のテーマ、鹿児島港本港区エリアの利活用に係るっていうことに関しましては、鹿児島市、鹿児島県に何かあるたびに要望・陳情をしております。その中で、鹿児島商工会議所自体が、10年後、20年後、30年後、まちづくりをどうすべきかというのを当事者意識の中で外注しまして、ここ10ヶ月ぐらい作業をしてきました。当然、会議所の中でも議論を尽くしまして、それが12月に完成しますので、基本的には、当然、この委員会に出て発言をさせていただきますが、集大成としてですね、最後のゾーニングに関しましては、会議所としてはこう考えてますよというペー

パーをお出しします。委員会にだけ出すのではなくて、知事、市長、両議会、マスコミの皆さんにも提出する予定でございます。ですから、今日は具体的な話は特に申し上げません。

一つだけ申し上げたいのがですね、サッカー場に関してでございます。今申し上げた会議所の10年、20年後のウォーターフロントの活用案の中にはですね、サッカー場は入っておりません。すなわち、会議所としては、ウォーターフロントに、今、市が考えているJ2の試合をするためのサッカー場をつくるということは、将来的にあまり必要がないという前提であります。

一方、県の考えておりますドルフィンポートの跡地に、体育館プラスアルファと会議所内では呼んでおりますが、その施設をつくることは前提として入っております。

最後にちょっと苦言を呈したいのですが、県も市も行政機関としてですね、やはり税金を使ったり、公有地を活用するのに当たってですね、もう少しやるべきことがあるのではないのかなと。あくまでもここで議論になっているのは県有地です。県民の財産です。そのウォーターフロントの県有地にですね、鹿児島市が税金を使ってサッカー場をつくる時に、鹿児島市の検討委員会で(ウォーターフロントの)3ヶ所が決まりましたっていうのをここ(県の会議)で発言したって何の意味もない。すなわち、鹿児島市がウォーターフロントにサッカー場をつくりたいのであればですね、ちゃんとここの場で、ウォーターフロントというところにサッカー場をつくるのが、鹿児島県にとって、鹿児島県民にとって、どれだけメリットがあるかいうことを示して始めて納得がいくわけで、鹿児島市の中の検討委員会にとって(ウォーターフロントの)3ヶ所が正当化される中で、ここ(県)の委員会で説明をするということ自体が、私は納得いきません。

そして県もですね、そういう場を設けること自体、変ではないのかなと思います。委員の方に錯覚させるとお思いますのでね。敢えて申し上げておきます。

(北崎委員長)

ありがとうございました。他に。どうぞ。

(升本委員)

第2回は出れませんので、若干ちょっと長めに。すみません、申し訳ない。色々な話を聞かせていただきまして、今日初めてインプットしているよう

な次第です。ですから今からお話する話は、ちょっとこれまでの色んな議論と協議の経緯と重複するところが多々あるかもしれませんが御了承いただきたいと思います。

おしなべて話すのは総論です。ポイントは二つあると思いました。一つは、本港区エリアのグランドデザインですけども、本港区エリアのグランドデザインにとどまらずですね、本港区エリアの活用の仕方というのは、鹿児島市の将来の未来をつくる、鹿児島自身のまちづくりのグランドデザインと、こう一体化しないと駄目なんだろうなという印象です。キザな言葉で言うと、子供達にどういう鹿児島を残すのかというのが、このおそらく本港区エリアの核になるんだろうなということですね。ですからあの、鹿児島市もしくは県のまちづくりの全体像の中で、この本港区エリアというのはどういう位置付けで進めようとされているのか、もっと大きなグランドデザインの中で、こう絵を描いていくというのが多分前提になるんだろうなと思います。

マクロの話と言いながらミクロの話をしますけども、先ほど冒頭で知事もおっしゃいました70パーセントがスポーツ、30パーセントがコンベンションというそういうイメージをおっしゃいましたが、70パーセントのスポーツのことを言うと、おそらくこれも多分議論されてると思いますけど、世界のおそらく色んなハコモノの共通課題として、コストセンターからプロフィットセンターに変えなくちゃいけないという大きな課題があるわけですね。それについては安定的な施設の稼働率を確保する、上げるということに他ならないと思いますけど、まあ例えば地元のプロスポーツチームは多分2つ、3つですかね、今。例えばレブナイズ鹿児島というチームがあるとすれば、そのホームをどこに持ってくるかというのは普通に考えられることだと思うんです。世界の色々なスポーツ施設を軸にしたまちの再開発というのは、ほぼ例外なくプロスポーツチームのホームタウンとして活かしてますので、鹿児島もそれは例外ではないと思います。ただ、年間30試合前後しかないと思いますから、それで稼働を劇的に押し上げることにはならないと思いますけど。一方では、日本に基礎自治体がどれくらいあるか知りませんが、プロスポーツを持つという自治体は非常に少ないわけです。であれば、プロスポーツチームを持つということのシビックプライドの醸成だと思うんですよね、それは。それと他の施設とのスポーツ施設との差別化も必要かと思います。

30パーセントのコンベンションでも同じことなんですけども、色々な大会を誘致するに当たっては、競争相手があります。競争相手がいるってことは、

必ず誘致のための誘致コスト、2次コストがかかりますので、そこをいかに抑えていくのか。ハコモノを埋めるためのランニングコストというのは、できるだけ抑える必要があるということですね。

それから、30パーセントのコンベンション機能の方は、おそらくコンベンションというイメージがあった分、バラバラのような気もするんですが、MICEで言うのであれば、MとIとCだと思います。一般的に学会とか会議とか言われるもの。一番まずいパターンは、中途半端な施設をつくるのが一番まずいということですね。スペックに徹底してこだわる必要があると思います。さきほど調査報告書の中でもありましたように、今、世間の風向きとしてハイブリッドの動向というのがありますけど、間違いなくリアルコンベンション復活すると思いますので私も。ビジネスの商談というのは会議の前後30分で決まるとも言われてますし、何よりアフターコンベンションというのが大きな魅力であるわけですね。ですから、統計を持ち合わせているわけではありませんが、福岡と札幌は学会で人気があるというのはそういうことです。であれば、鹿児島天文館というのは非常に大きな武器になり得る。ということは、鹿児島市のなりたい好みをどう今後舵取りをしていくのかってというのは、まさしくまちのランドデザインになるのかなっていうふうに思います。

それから報告書の中でも縷々ありましたけれども、人流の回遊性ですとか連動性をいかに持たせるのかは非常に重要だと考えます。天文館から本港区エリアというのは微妙な距離だというふうに思いますが、それはプラスに転換して考えるべきだと思うんですね。短絡的には車での移動ではなくて、歩けるまちですとか、自転車で回遊できるとか、回遊性が高まれば高まるほど経済効果というのは大きくなりますので、そういったこともやはりランドデザインの中で考えるべきだろうと思います。

もう一つポイントは、一番私が感じた大きなポイントなんですけど、どのような施設をつくろうともですね、スタジアムを含め、多分この本港区エリアの再開発の主人公というのは、そこに住む住民であるべきだというふうに思います。交流人口拡大というのはコロナ前はもう誰もが言っていました。もちろんその考えを捨てる必要はありません。交流人口拡大することは経済効果を最大化することですから、その考えは捨てないにしても、交流人口、観光客の以前に、まずこのエリアに住んでいる人達のエリアであるべきであろうというのが私の感想です。鹿児島の象徴であるべきではないかということですね。

桜島を抱(いだ)く借景というのは、本当に唯一無二のものだと思いますの

で、先ほども言いましたけど、鹿児島に住んで良かったなというシビックプライドというのは非常に大きな私はキーワードだと思います。特にコロナ以降、人の心が変わる中で、シビックプライドを持たないまちってというのは、廃れるとは申しませんが、やはり浮ついたものしかできないということです。本当に桜島を借景したこのエリアというのは、グルメが楽しめて、家族とかカップルが集って、例えば週末になればフリーマーケットが開催されて、本当に鹿児島に住んで良かったなと思わせるようなエリアであるべきだということです。そうすればおのずと観光客も集まってくるだろうということ。

それからもう一つは、スタジアムも含めて、スポーツ・コンベンション施設の候補エリアという以前にですね、おそらく日本でもというか世界でも稀な、活火山を背景に抱(いだ)く極上のウォータフロントエリアであるということとを再認識すべきかなということです。ウォータフロント開発の成功事例というのは世界にたくさんありますが、根底にあるのは地元住民に支持され愛されているということだと思います。そのことをもう一度リマインドすべきかなと思います。

九州経済連合会という経済団体の立場で申し上げますと、この再開発計画というのは、例えば経済効果ですとか雇用効果というのが、鹿児島の中だけで閉じずにですね、九州全域に広がるっていうことを期待してますし、長崎が今、手を挙げてますが、I Rと同様に、じゃあ来場者計画をどうシミュレーションするのか、その来場者が落とすお金をどうつくるのか、雇用効果がどれくらいあるのか。さっきスタジアムのところで出てきましたけど、そういったことを開示していくのも非常に重要なことかと思えます。以上です。

(北崎委員長)

ありがとうございました。シビックプライドの観点からの御意見でした。他にございますか。有山委員お願いします。

(有山委員)

3年前、ランドデザインの策定の際に関わらせていただきました。今回の検討に当たりまして、私が考えていることを3点ほど述べさせていただきます。

1点目は、景観資源を主軸とした活用ということです。このエリアから眺める桜島と錦江湾という景観は、何物にも代え難い、さきほども唯一無二という

お言葉も出ましたけれども、そういった資源であるということ。そして、その景観資源を私達が日々の暮らしの中でどう結びつけていくのか、この場所でどう過ごしたいのかということ、1人1人が想像して、ワクワクできるような場所であってほしいと思っております。

そのようなことから、正直に申し上げますと、この景観を阻害するような高い建物が立つということについて、私は否定的な意見を持っております。とは言え、さきほどから説明がありましたとおり、新たな総合体育館というものをこのエリアに設置する意義についても理解できます。現在の基本構想では、この場所にスポーツ・コンベンションセンターを整備したとしても、ウォーターフロントパークは保全されるということで、この景観資源を最大限活かすということを前提に、この計画の検討の余地はあるのではないかと考えています。同時に、ウォーターフロントパークは、まだまだ公園としての機能というのは十分ではないというふうに思っておりますので、更に公園としての機能を充実させること、そしてスポーツ・コンベンションセンターと一体的に整備するということも必要ではないかと考えています。

また2点目なんですけれども、景観マネジメントの組織化という点です。このエリアに新たなまちができて、人が集うということで新たなコミュニティが生まれて、それがまた新しいまちの景観をつくっていくというふうに思っています。ですので、自然だけではなくて、人やモノがこの場所をつくっていく新たな景観というものも、まちの魅力につながっていくのではないかと思います。そこにデザインの発想というのが不可欠だと思っております。本港区全体のデザインコントロールというものを、そういった意味でエリアマネジメントというものが必要になってくるのではないかと考えております。例えばなんですけれども、大阪駅の北側の再開発で行われているような景観マネジメントを行う組織を立ち上げるということも選択肢の一つではないかと思うところでございます。

そして3点目でございますが、県民の参画という点です。今回のこの(スポーツ・コンベンションセンターの)計画において、事前に商業施設ですとかイベントでパネルを展示して情報提供をしたり、また、この会議においても、当初の傍聴人数を増やしたり、ネットで配信したりするなど、幅広く周知しようとしている県の姿勢が感じられるところです。そして、さきほどもちょっと御案内がありましたけれども、県民の意見を集約する何か方法も次回では検討されるということでございました。まず知っていただくこと、そしてそれを更

に一步進めて、情報を得て興味や関心を持った方々が自身の意見を例えばネット上で発信して県に伝える、他の方がどういう考え方を持っているかということを知ることができるっていう仕組みが必要なのではないかと考えております。次回検討したいと思っておりますし、幅広い意見を集約することで、参画の意識も高まると思いますし、充実した議論につながるのではないかと考えておりますので、その点をよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(北崎委員長)

貴重な意見をありがとうございます。他に。どうぞ。

(西村委員)

私はランドデザインの議論に参加した者です。資料3にその資料がありまして、その時の議論を思い出してですね、何を我々は大事にしようとしていたかということなんですけど、一つはウォーターフロントパークは守ろうと。それは県民全体のものなんだと。そして、ウォーターフロントには、人がなるべく近くまで行ける。道路があるんじゃないかとですね。まずはウォーターフロントパークをそういうものとして、今ももっと改善しないといけないと思っておりますけども、まずはウォーターフロントをずっと歩いていける、北の方までですね、まずそういうようなことを大事にしよう。そして、建物を立てるとすれば、それはドルフィンポート跡地の方に立てましようということを議論したんですね。

それともう一つはですね、ちょうど間に臨港道路南北ふ頭線がありますけども、ここのデザインがすごく大事だろうと。つまり、片方がオープンスペースで、片方に高い建物が立つとすごくアンバランスな空間になりそうなんです。ここのところを結構議論しました。どちらからも自然につながるようなものにすべきではないかと。例えば、資料3の全体のゾーニングは19ページですけども、17ページのところに断面図がありますけども、この断面図は割とすごく単純化してますけども、道路のところを本当にきちんとつくりたいといけない。逆に言うと、道路を少し変えることも含めて、色々いいデザインにすべきだと。

少し心配なのは、スポーツ・コンベンションセンターは、面白いものができればすごく魅力的だと思います。建物としても大事です。ただボリュームがあ

るので、そして外側はかなり壁になりがちなので、この道路側に魅力的な空間をつくるというようなことをあらかじめ考えておかないと、スポーツ・コンベンションセンターはスポーツ・コンベンションセンター、ウォーターフロントパークはウォーターフロントパークという何か別々の感じで全部できてしまうとすごく困るなという感じがしています。ですので、その意味ではですね、いいスポーツ・コンベンションセンターができるのであれば、こちら側はたくさんの方が回遊してもらって、天文館の方に流れていくような仕組みを、外とつなぐ仕組みをつくっていくということも必要だと思うんですね。

アリーナは屋根がかかっているもので、色々なことができますし、私はむしろスポーツも大事だけれども、色んな多様な使い方ができて、色んな人が来れて、回遊が様々に進むという方が、都心にとってもっといいのではないかと思います。そういう意味で言うと、コンベンションの部分を工夫して、市の方が色んなアイデアを出していますけど、あれは多分、アリーナでも十分できることが多いので、アリーナでやってもらって。スタジアムで屋根がなくて、なおかつJリーグ仕様だとスタンドに何か覆いみたいのが付くんですよね。ものすごいスケールになるわけです。こういうものがここにあるというのは、市民にウォーターフロントを開放するという考えからすると随分違うなという感じがしております。

最後に1点ですけど、PFIの話がありました。今、PFIがいいんじゃないかということですけども、私ちょっと心配なのは、PFIというのは値段と運営とデザインとが一緒に決まっちゃうんですね。デザインもすごく大事なんです。さきほどもありましたように、いかに通りが魅力的になるか、人が来るかということもすごく大事なんですけども、一回PFIで決めちゃうと、なかなか変えられないわけですよ。なので、何かデザインをきちんと決める仕組みと、その後の運営とを少し分けて考える必要があるんじゃないかと。あまりPFIがいいからといって、ここで立ち止まって考えて、この空間を全体としてどんなものにするのかということ、グランドデザインのもうちょっと先を議論してもらおうということが必要なんじゃないかなと思います。以上です。

(北崎委員長)

はい、どうぞ。

(太田委員)

ちょっとコメント的になってしまうかもしれませんが2, 3点。さきほどのお話の中で市民の御意見は当然ですが、時間軸で言うと、現在と未来という部分で考えるということですね。逆に過去にさかのぼると、1980年代に神戸初頭にポートピアという国際博覧会が開催され、日本で最初のコンベンションセンター、展示場、ホテルの複合施設(コンベンションコンプレックスゾーン)が作られました。以降ですね、10年間の間に全国に多くのコンベンションセンターが出来ました。その末路というとな変な言い方ですけども、皆さん30年以上経て老朽化し、小規模改修から、そろそろ大規模改修にかかるところが増えてきます。建て替え、改修、増築、移設等の工事例とかですね、人が使わなくてさびしくなってしまった名古屋のポートメッセや、晴海地区にあった国際展示場は1995年に東京ビッグサイトとして台場地区に移転生まれ変わりました。今度、築地市場移転の跡地にまた新しい集客施設を機会損失を補うために計画しています。何を言いたいかというと、今、我々が良かれと思ってやってることが、30年、50年先には、我々は居ない可能性が高い。そうするとやや無責任な話になっちゃうかもしれない。例えばスポーツにしても、我々が30年前には想像だにできなかったファミコンがスポーツになりプロ選手も生まれる「eスポーツ」となっているとか、オリンピックで新しい種目としてやっているような新しいスポーツができて、ボルダリングもしかり、ブレーキングダンスや、スケートボードしかりですね。まさに多様なもので色々やり始めているような人達も含めて色んな意見を聞きながら、今、我々がいいと思っていることが30年、50年、継続して使われるような施設を考えたいですね。

また来年度から、義務教育で部活がアウトソーシングされるということで、受け皿になる組織・指導者や施設が必要になります。私は今、埼玉に住んでいるんですが、少子化が進んで例えばサッカーチームの人数が集まらずチームができない、野球チームもできない、2つの高校、中学が集まってようやくチームができる等の現象が表面化しています。そうなってくると、今年77万人、ここ数年毎年80万人を割っている子供達が、あと20年経ったらどうなってくるかと。我々が良かれと思ってやっていますが、施設だけではなく組織等、今のことだけではなくて、未来も見えていかないとと思います、過去に勉強するという意味で言うと、全国に50何箇所以上のコンベンションセンター等の、専門施設があって、経年劣化と共に利用方法や運営方法、設備等のインフラとか皆さん多くの悩みがあるのでそういうところにも学ぶべきと思います。

それからPFIの話。一括でもし受けるとすれば儲からない施設は絶対につくりませんので、そのあたりがちょっと微妙ですね。また、事例は少ないですが最近はやりのコンセッション方式についても、どう評価するか。(例・愛知県スカイ EXPO・展示場)

最後にすみません順不同で恐縮ですが、観光協会とかコンベンションビューロー、DMO等多様な組織があって、それぞれの目的で仕事をされておられます。地域特性もあります。もう少し何か整理ができるといいですね。儲かる地域組織、観光推進に特化したDMO、従来型の観光協会、コンベンション等の誘致に特化したコンベンションビューロー、観光とコンベンションを融合した「観光コンベンションビューロー」とか皆さん色々悩んでやっておられます。もちろんワン九州でいきなり作ってもうまくいくとは思いませんが、瀬戸内DMOのように7県で広域的に組織・運営されていますが、大きければいいというものではないし、小さければ小さいほど小回りが利いても力を出し切れないとか、組織づくりも併せて考えないと施設のハード整備だけでなく、施設運営のソフト整備も必要と思います。特にMICE施設では、誘致活動を行う営業センスと営業活動も重要な要件となります。何か感想めいた話になってしまいました。以上です。

(北崎委員長)

はい、津曲委員。

(津曲委員)

私は体育館の整備の委員会に参加させていただきました。その中で体育館の必要性、それから基本コンセプト、規模、機能そういったものを議論いたしました。時期についてもだいたい議論いたしましてコンセンサスがとれたところだと思っております。また、場所についても、サブアーバン、できるだけ都市に近いところがふさわしいというところまでは決まりました。その中でドルフィンが一番有力という話になった時に、委員会はかなりこう沸騰してきたというところなんですけど、それは、体育館が主語だった会議がですね、そこからドルフィンが主語になって、ドルフィンに体育館をつくっていいんですかという議論になったところで大きく議論が沸騰したと思っています。やはり体育館は必要なんですけども、じゃあドルフィンにという重要なところではですね、海を活かした、或いは本港区の景観を活かしたまちづくりの中

で、体育館はどう機能してどうあるべきかという議論が必要だということでもありますし、そこに体育館をつくっちゃって、それで周辺とか時間軸、何もなくていいのということに対しての恐れといいますか、そういったものであったと思います。ドルフィン自体が時間軸として将来、10年後、20年後、どうなっていくんだろうということと、ドルフィンだけじゃなくて周辺はどう変わっていくんだろうかという議論の中でしか、まちづくりは語れないわけでありまして、それがその体育館の委員会の中では、だいたいあの辺りということまでは決められるんですけども、次はやはりまちづくりの主体となっていくまちで集う人達、働く人達、活かす人達という中で議論していかないと決められないだろうなと思ってまして、この委員会が今回ある意味ではそこだというふうに思っております。

その中で、どういった機能が必要かというゾーニングも必要ですけども、その前にといいいますか、もう一回リマインドして、どんな施設が必要なのかと、どんな機能が必要なのかということも話をしていくべきかなと思いました。体育館、スポーツ・コンベンションセンターという名前になったようですけども、私としては、この体育館の中でできるのは開会式と閉会式と基調講演ぐらいだろうと思ってまして、これで全部のコンベンション機能がここでできるわけではないと思っています。展示場も含めてそういったものも考えていかないといけないと思いますし、市民、県民の目線の中でのアミューズメント施設だとか、景観を大事にする場所だとかいうのをどう確保するかという話も必要だと思っています。

それから、これだけものが入ってきますと、本当にここで交通の問題というのはどうしても考えないとイケませんし、公共交通網をどうやって導入していくのかということと、港湾に従事する方々の機能が不全化しないかというようなことを考えますと、そこもしっかり議論を進めるべきだと思っています。その中で場合によっては、道路の付け替えだとかですね、港湾計画をどこまで変更するのかよく分からないですけども、そういったことが、10年、20年、30年という時間軸の中では、少し考えていって、それを踏まえてゾーニングすべきかなと思います。自分の中で今、確固たるゾーニングがあるわけではないですけども、もう一回この大事なところで、時間軸と空間軸を広げて議論しないと、納得したコンセンサスは市民、県民の方には得られないのではないかなと感じました。以上です。

(北崎委員長)

はい、木方委員。

(木方委員)

皆様の御意見を聞いて、本当に今までの議論というのが、これまでの経緯の中でもかなり重要な論点というか注意点というのが積み重なってきてるなということを感じた次第です。

やはり西村委員がおっしゃったとおりですね、海辺の景観、特に海に親しめる空間を残していくというのは非常に大事ですし、或いは皆さんおっしゃったように、シビックプライドという市民、県民の皆さんがですね、誇りを持てる景観を、整備することも大事ですが、保全していくという観点も非常に大事で、そういうものの上で、ここの土地利用、まちづくりをどうするかということを考えていく必要があると思いました。

それから御発言にもあったとおり、こちらでドルフィンポートを中心としての本港区のまちづくりを、ここだけで考えるのではなくて、もう少し周りの市街地、或いは臨港地区であるとか、もっと言えばもっと近い中心市街地との関係の中で、ここのエリアでドルフィンポート等の本港区でやらなければいけないことと、そうではなくて周りのできることというものの役割分担と相乗効果みたいなことをもっと考えないと。なんとなく今色々議論が出ている中で、ここはドルフィンポートなのでこれもあるよ、あれもあるよと放り込みすぎてますが、実際のまちづくりはもうちょっと広く考えないといけないのかなと感じます。

それから、今回の検討委員会の最終的なアウトプットというか、ゾーニングという話が出てましたけども、有山委員が最初におっしゃってくださったように、それに加えてやはりデザインをどうするのか、空間の整備と保全の方向性をどうするのか、デザインコントロールという言葉が使われましたけども、その部分までしっかりと議論を進めていって市民、県民の方に提示して納得いただけるような、そういう委員会としての役割があるなというふうに皆さんの意見を聞きながら、私もそもそもそう思っていましたけれども再認識しましたので、委員会の中でじっくりそのところを議論できればいいかなと思っています。

最後にもう一つですけども、収益性であるとか経済効果という言葉がすごく出てきてますけども、シビックプライドということと言いますと、本港区の

ウォーターフロント地区の価値というものを、経済効果や収益性のために使い果たしていいのかという議論もすべきだと思いますね。やはりそれは、全部使ってしまうんじゃなくて、シビックプライドのために残しておくことが必要で、単にそれを収益性につながるからと言って、100パーセントそこを活用するんだという議論だけで進めるのは、ちょっと問題があるのかなと思います。

なんとなくこれまで、どうしてもインバウンド経済であるとか、国の施策としてそういう流れになっていたので、こういう論調になってますけども、今の時代、それだけではなくて、皆さんおっしゃっているように次の世代のためにですね、景観資源を消費しきらないということも私は大事な視点じゃないかなと思います。以上です。

(北崎委員長)

時間が来ましたが、色んな貴重な意見、ありがとうございました。また、今後の委員会の進め方に対する色んな意見がありました。それをしっかりと検討しながら進めたいと思いますが、1点だけ、市からちょっと今日20分ぐらい報告ありましたので、それについて県がどういうふうなお考えか、サッカー等スタジアムの中間報告について、どのような課題があるかということをお聞きしたいと思います。

(前田室長)

鹿児島市が公表いたしましたサッカー等スタジアムの中間報告につきましては、ピッチ・スタンドの年間を通した日数単位稼働率が42.2パーセントでございます。年間の半分にも満たない稼働状態であるということを踏まえ、年間365日、賑わう拠点を形成することを開発コンセプトといたしましたランドデザインとの整合性をどのように図るのかといった課題があるというふうに考えております。

また、本港区エリアでの2つの配置案のうち、ドルフィンポート跡地への配置案につきましては、景観への影響、また、県民の憩いの場として散策やウォーキングを楽しんだり、各種イベントの会場などとして現在も利活用されておりますウォーターフロントパークのほとんどがなくなることの取扱い及び代替緑地をどのように確保するのか、また、臨港道路の付け替えなどの多くの課題があると考えております。

また、住吉町15番街区への配置案につきましては、栈橋構造による敷地の拡張が計画されており、仮に、住吉町15番街区に整備することとなった場合には、港湾計画の変更等の検討が必要になるものと考えております。以上でございます。

(北崎委員長)

県の課題としてはそういうものを挙げられておりますが、ちょっと私の私見としましては、今日、ランドデザインに関わった委員の方からランドデザインとの整合性について、もう一回、市に聞きたいというのがあったかと思えます。それと私、経済の分野ですので、回遊性とか中心市街地に寄与するんだというような言い方をする場合は、それなりの材料をちょっと出していただければなと思えます。

それよりも、委員としては、シビックプライドとか、そういう経済的な側面だけで語られるものじゃないと言われますけど、市としてそういう説得的な材料があれば、それを提示していただきたいと思っております。

予定の時間を超えましたので、申し訳ないですけど何名かの委員の方には発言がいただけませんでした。2回目もう一回、意見の交換の場がありますので、そこで御意見をいただきたいと思えます。

検討委員会の進め方と概ねのスケジュールについては、概ね御理解いただいたと思えますし、ちょっと今日、色んな意見がございました。それを踏まえまして、事務局と私の方で更に進行の方を考えさせていただきます。それでいいですか。

(各委員)

はい。

(北崎委員)

それでは議論の方は、この形で閉じさせていただきます。